

## 五十の手習い

支援員 永井悦郎

人生五十年目が近づく  
四十七歳、介護の世界に係  
わる仕事に就くことになる  
とは、人生とはわからない  
ものである。

高校卒業以来、三十年近  
く製造業に携わってきました。  
なぜ関心を持つようにな  
ったのか、以前から職場  
の仲間の中には「永井さん  
は製造業より介護の方が  
合っている」と言ってくれ  
る人もいました。ただその  
時は聞き流す程度でしたが、  
それが何時の頃からか心  
中に残る様になりました。「自  
分でもそうなのかな」と考  
えるようになりました。そ  
んなある日、自宅に帰って  
奥さんに「介護の仕事が合っ  
ていると言われるんだけど」と  
と伝えると、「私もそう思う  
よ」と予想しなかった返事  
が返ってきました。

それから一念発起、四十七

歳にして介護の世界に飛び  
込む決心がつき、今迄お世  
話になった会社を退職しま  
した。しかしこれからどう  
したら良いのか解らずにい  
ると、ハローワークに再就  
職支援制度があり、介護専  
門学校に通学できることが  
わかり、早速申し込むこと  
にしました。しばらくして  
選抜試験があり、当日試験  
会場に行ってみると、二十  
名定員の所に三十五名の  
人達が集まっていました。



ふれあいスポーツ交流会に参加しました

数日後合格の通知が届き  
何とか二十名の中に残るこ  
とができました。

平成二十四年十二月、三十  
年ぶりに電車通学で、松本  
駅近くの介護専門学校に通  
うことになりました。初日  
教室に入ってみると皆社会  
人ということもあり、下は  
二十歳から上は五十五歳ま  
で様々な職業からの転職希  
望者でした。訓練期間三ヶ  
月で介護の基本を学びまし  
た。今でも学校の仲間とは  
付き合いがあります。

いざ専門学校を卒業して  
みるとここからが大変でし  
た。「介護の世界は常に人手  
不足」と聞いていましたが、  
四十七歳という年齢、しか  
も男となると採用してくれ  
る施設もなかなか見つから  
ず苦労しました。

今回、木曾寮にお世話に  
なることになりましたが、  
排泄支援、食事の介助、利  
用者様とのコミュニケーション  
など、学校で習った

通りにはいきません。先輩  
職員に「日々勉強だ」と励  
まされながら、一歩でも先  
輩の皆さんに近づける様頑  
張りたいと思います。

五十の手習いという言葉  
もあります。将来介護福祉  
士の資格取得を目標に、家  
族からも「向上心を忘れる  
な」と励まされ日々頑張っ  
ています。

これからも職場の先輩の  
皆さんから色々学びながら、  
日々向上心を忘れないよう  
頑張りますのでよろしくお  
願いいたします。



金の鯰のお出迎え